仮番号［書10―323］

拝啓

其後益々御健勝の御様子何より
に存じます先日御帰省の御事
新聞にて承りましたが已に御帰京
の段とて詮方なく爰に書面にて御願
致します段あしからず願ひます
本郡教育会の有志が発企し会か補
助して本年六月初旬か下旬か（下旬の方
が当方にては都合よろし）に塑像の
講習会を開く事にきまりました昨
年から高等科に手工を必須科として加へ
られ又尋常科にも加へて居る所が多い
が従来粘土細工として課して来た所に
満足出来ず教師の着眼や鑑賞眼や
其他手工についての態度を作りたいのです
そして講師として石井鶴三先生を御願
したいのであります先生は已に数年間
上田小県方面の有志の為めに引つゞいて
講習をされて居ます方々へ御苦労を
願ふことは誠に恐縮でありますがこちら
でも今年から始めて出来るなら少し
続けたい希望であります貴殿には
石井先生と御知己でありましたらば
一つ御骨折りを願って先生の御承諾
を得たいと思ひます　日数は四、五日位
としたいものです　有志と申しても結局
各学校から出席することになりませう
先生か御承諾下されますれば方法
について先生の御意見を伺つて決定
したいと思ひます　始めには石膏と
云ふことも困難で粘土でかゝるとしては
など申します其辺貴殿からも
然るべく御話を願度存じます甚
勝手ですが何分御御尽力願度
御依頼申し上げます

敬具

昭和三年四月二十七日

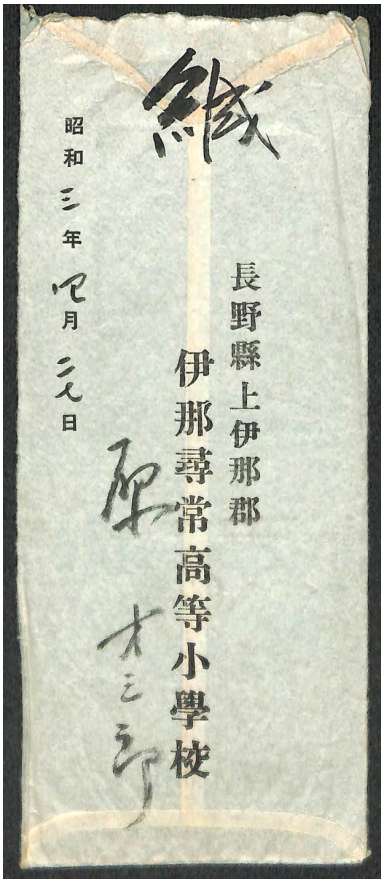
原才三郎

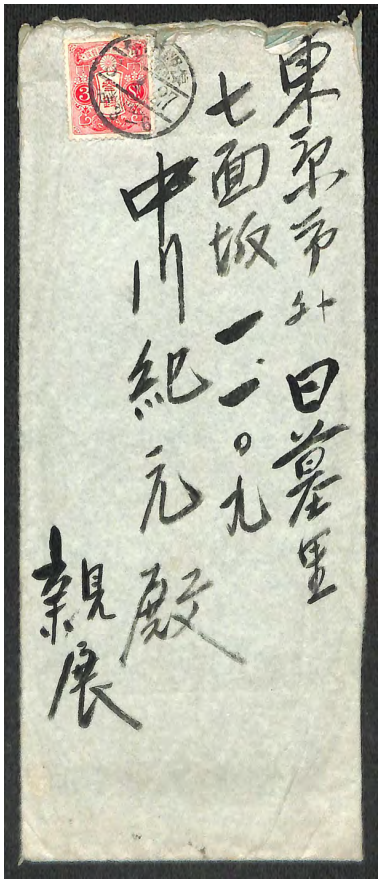
中川紀元殿

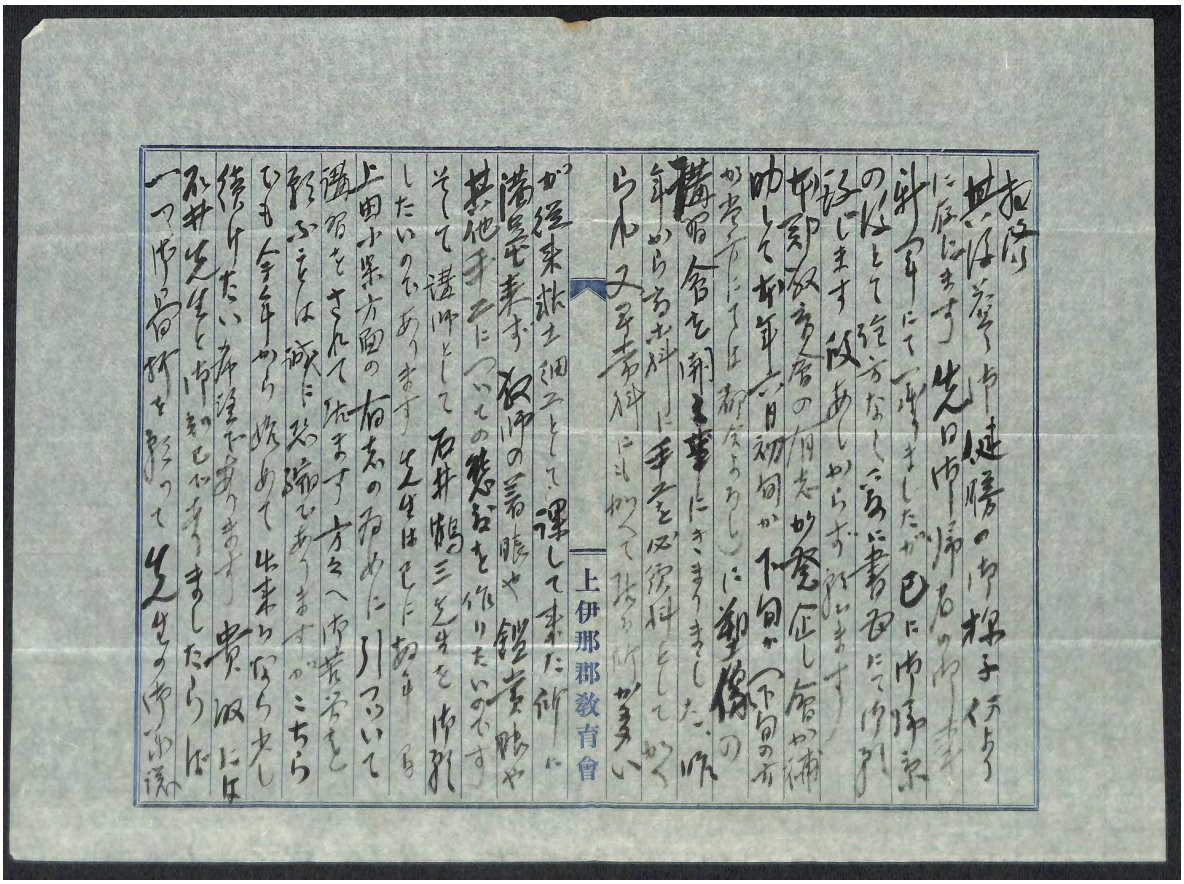
坐下

便箋

［受信者］東京市外日暮里／七面坂一一〇九／中川紀元殿
［発信者］長野県上伊那郡／伊那尋常高等小学校／原才三郎
［日付け］昭和三年四月二十七日
［消印］長野□□／3・4・27／后3―6


紙
昭和三年七月二九日
長野縣上伊那郡
伊那尋常高等小學校


東京市外日暮里
七面坂一一〇九
中川紀元殿
親展


上伊那郡教育會

を得たいと思います　日取は四月廿日位
としたいものです　右御相談とも伺ひ
右御相談から出席する事になります
先生の御承諾下されますか　方法
について先生の御意見を伺って決定
したいと思ひます　始めには石六名と
云ふことも困難に　新土ひのくるとそれは
なるべしまします　其辺貴説いらも
聞きたく　御強を願ひたくします　甚
勝手ですが　何分御考へ願ひます
御依頼申します　敬具

上伊那郡教育會

明治三十七年四月二十七日　東　才三郎

中川紀元殿
侍下

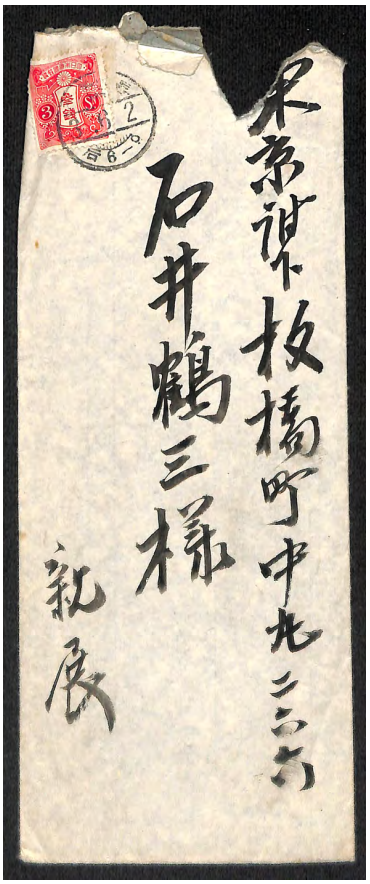
仮番号［書10―246］

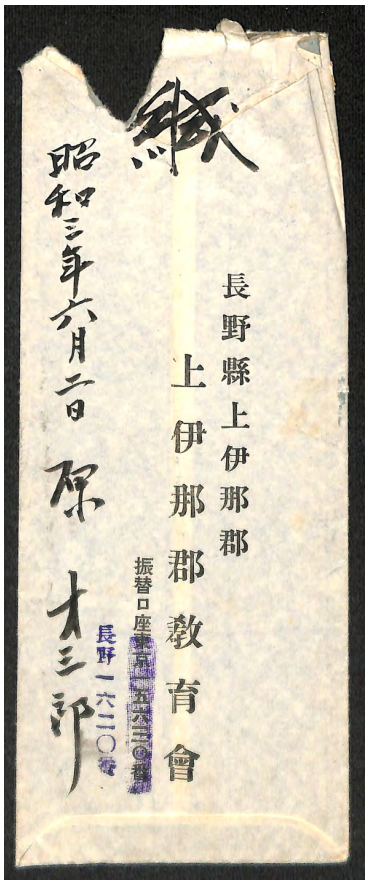
拝啓
初夏漸く暑気加はります折柄益々
御清栄にいらせられ大賀に存じます
扨て当郡教育会に於造塑講習会開
催につき先生の御指導御願申しました
処御承議を忝うしたる趣丸山清人
氏より承り有りがたく存じます昨一日
丸山氏及他委員参集夫れ〴〵の
準備を進め居ります始めての事と
て手落なき様にと力め居りますが尚
御心付の点は御指示の程祈り奉ります
当地は只今は青葉のさかり山々には
遠く高峰に残りの雪も見へます此自
然の景は聊か先生を御慰め申し得ん
かと存じます謹んで御来駕の日を御
まち申します　　敬具

上伊那郡教育会
昭和三年六月二日　原才三郎
石井鶴三様

［受信者］東京府下板橋町中丸二六六／石井鶴三様
［発信者］長野県上伊那郡／上伊那郡教育会／原才三郎
［日付け］昭和三年六月二日
［消印］長□□□／3・6・2／后6―9

便箋





拝啓

初夏漸く昌茂加はります折柄益々
御清栄にいらせられ大慶に存じます
扨て當郡教育會に於ては勅語奉體會例
條につき、先生の御指導御教授願ひました
處御承諾を賜りました故出張人
員多い方が有りがたく存じます作一日
先出張人員他事取集まれば一日の
準備を進め致します 何卒その事と
て手廻なき様にと力め致りますが者
御存じの通り御指示の通り行きます
者地は只今は青葉のさかりとなる
速く御陣に臨の事と思ひます先月
然の景は御かた先生を御慰め申し得ん
かと存じます 淺人で御来臨の日を御
待ち申します

敬具

上伊那郡教育會

昭和三年六月二日

郡 主事

石井鶴三郎

上伊那郡教育會

仮番号［書10―245］

拝啓

日に増し暑気加はり当地も全く夏心地
となりました此処数日は田植の盛りにて
野の面の日毎に移り変る様は眺め
あかず覚えます　先生の当地へ
御出で下されます日時御聞申度別
紙中央線及伊那電車時間表写
差添へます故御参考御決定を
願ひます当地へは始めての御旅
と存じますので電車の乗降等もあり
御不便と存じます故辰野迄丸山氏
御迎へ致し度存じますれば御決定
の時間御報らせ被下度御願申します
時間表中○印のものが適当かと存じます
日中なれば一、二の中を夜行なれば三、を御
選みなされ度三には寐台もあります、一
は朝の時間早きも涼しき中に過ごすの利
もあります
右御決定御願迄　　敬具
昭和三年六月十二日　原才三郎

石井鶴三様

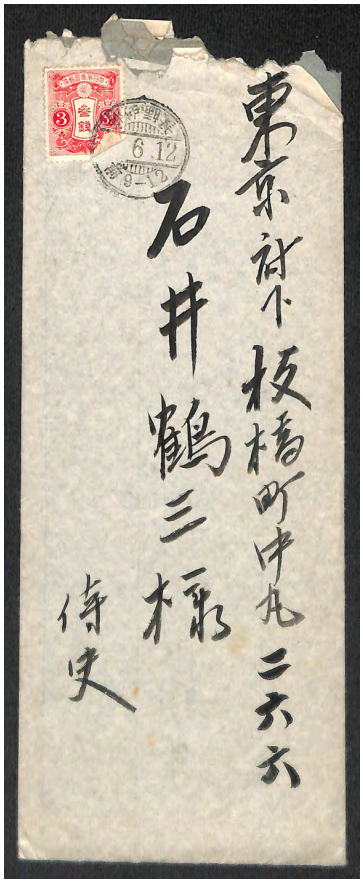
便箋

中央線汽車　　伊那電車

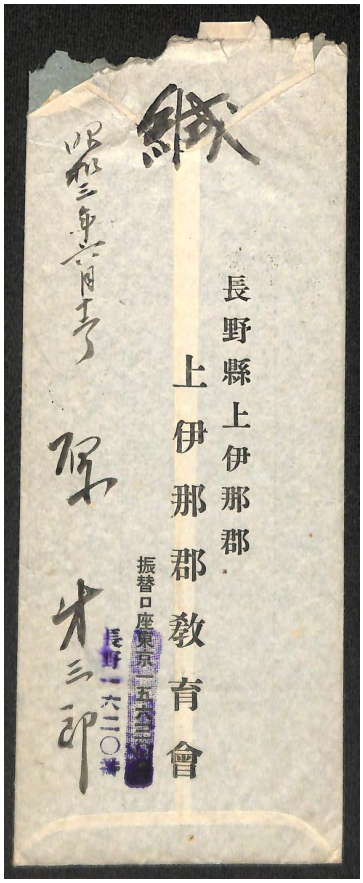
発　時間　着　　発　着

一○飯田町松本行　前五時三〇分　辰野后一時四三分　辰野后二時
六分　伊那后二時五〇分
二○〃　名古屋行　前八時一三分　仝　后五時○分　仝　后五時
六分　仝　后五時五〇分
〃　松本行　前一○時一三分　仝　后六時四六分　仝　后七
時六分　仝　后七時五〇分
〃　〃　正午一二時　仝　后八時三九分　仝　后九
時六分　仝　后九時五〇分
三○〃　長野行　后一○時○分　仝　前五時五九分　仝　前六
時六分　仝　前六時五〇分
〃　長野行　后一一時三十分　仝　前八時三六分　仝　前九
時六分　仝　前九時五〇分

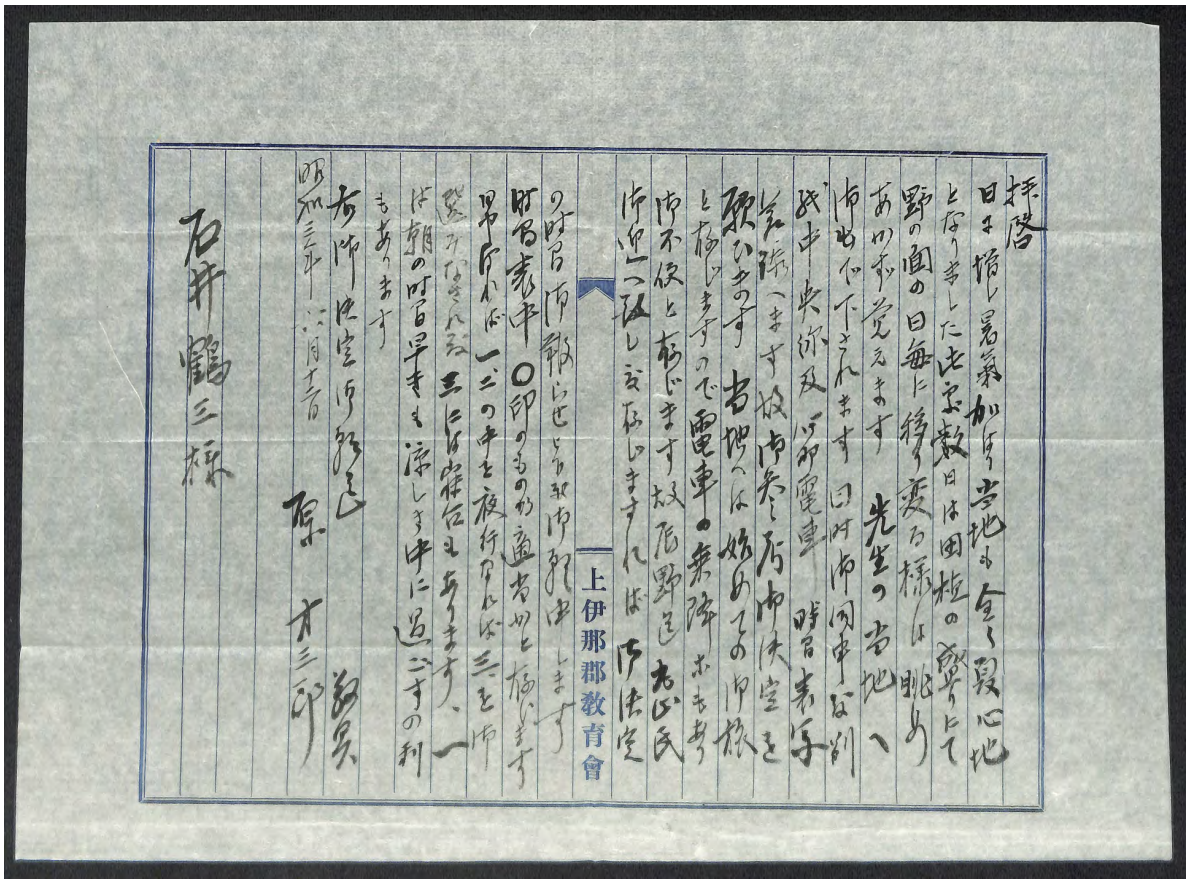
［受信者］東京府下板橋町中丸二六六／石井鶴三様
［発信者］長野県上伊那郡／上伊那郡教育会／原才三郎
［日付け］昭和三年六月十二日
［消印］長野伊那／□・6・2／前9―12



東京府下板橋町中丸二六六
石井鶴三様
侍史



紙
長野縣上伊那郡
上伊那郡教育會
振替口座東京五六三三
長野一六二〇番
昭和三年六月十五
原 太三郎



拝啓
日々暑し暑氣加なる当地も全く殺風地
となりました上京数日は田植の繁りにて
野の面の日毎に移り変る様は眺め
あかず覚えます　先生の当地へ
市出仕不されます日は市内中は別
此中央線及び電車　時間表等
送ります板橋駅より市内決定を
願ひます　当地へは始めての市様
と存じますので電車の乗降ホモ
市不快と存じます故長野迄
市内一円私し云ひますれば市法定

上伊那郡教育會

の時間市報に出ます市郡中します
時間表中○印のものが直通列車
昼夜合計一三の中を夜行列車三を市
然るに三は寝台もあります、一
は朝の時間早きも涼しき中に過ごすの利
もあります
市内は空市郡
昭和三年六月十五日　原 太三郎

石井鶴三様

中央線汽車

發	時間	着	發	着
飯田發行	前五時三〇分	辰野行	辰野行	伊那行
〃	前八時一五分	仝	仝	仝
〃	前一〇時一二分	仝	仝	仝
〃	午一二時	仝	仝	仝
〃	長野行 午一〇時〇分	仝	仝	仝
〃	長野行 午一一時三〇分	仝	前八時三六分	仝

伊那電車

發	時間	着	發	着
一〇〇	辰野行 午一時四〇分	辰野行	辰野行 午一時六分	伊那行 午一時五〇分
二〇〇	仝	仝	仝	仝
〃	仝	仝	仝	仝
〃	仝	仝	仝	仝
〃	仝	仝	仝	仝
三〇〇	仝	前六時六分	仝	前六時五〇分
〃	仝	前九時六分	仝	前九時五〇分

上伊那郡教育會

仮番号［書10―244］

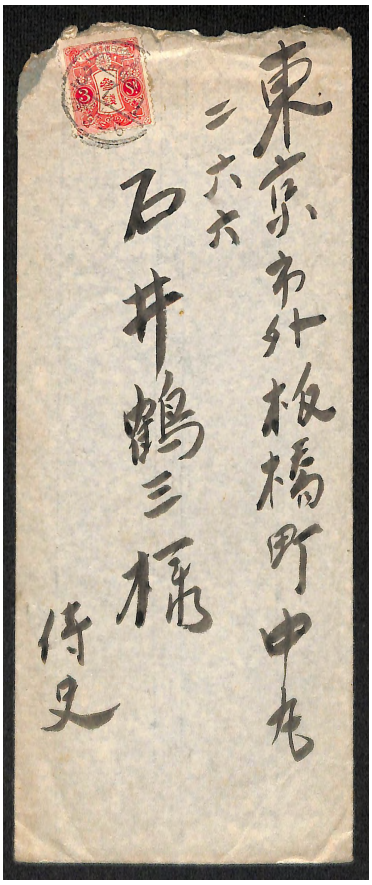
拝啓

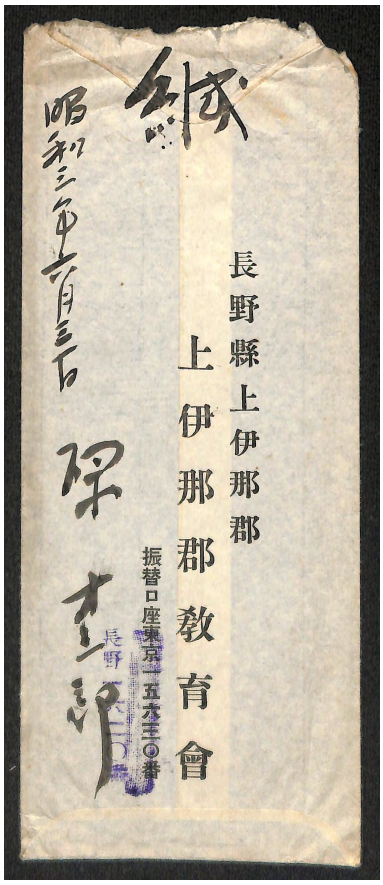
此間中は毎日御熱誠を籠めた御指
導に預り只々感謝致し居ります殊に
最後には御多用の中を一日御延ばし
下され連夜遅く迄御苦労も忘れ
ての御骨折は一同の頭に深く〳〵
生涯の記憶とも相成ります明日より
は各学校共授業は開始されます
どのように意味深く一般の人々に
迄伝へられ行くかと思ひまして悦び
の心に満たされて居ります御出
発に際しては辰野にて手違あ
りたりと後に伊藤氏より承り誠に
申訳なく御容しの程御願申
します帰途に尚一応注意せばよ
かりしにと思へど詮方なく存じます
雨の為めなどにて何れへも御出かけの機
もなく遺憾に存じます何れよき折を
もて取返し致し度存じます御礼旁
御詫迄（カ）　　敬具
昭和三年六月三一日　原才三郎

石井鶴三様

便箋

［受信者］東京市外板橋町中丸／二六六／石井鶴三様
［発信者］長野県上伊那郡／上伊那郡教育会／原才三郎
［日付け］昭和三年六月三一日
［消印］□□／3・7・1／后3―5





拝啓

此間中は毎日御疲労を一読めたり拝
導に預り只々感謝致し居ります殊に
最後には市多用の中を一日御延ば
下され走馬灯迄見せて戴き若き者も
たのもし皆様の記憶とも相成ります
は各々校共接世話は御願申ます
どのようにも意味深く一般の人々に
迄伝へられ行くかと思はれまして悦び
の四に堪たされて居ります　市内
愛に陸しては根野にて手遠
りなりと後に伊藤氏より御通知に
申訳なく御出しの経費は経費
します　帰宅に赤一元渡致せば
かりしにと思へど詫かなくなります
雨の為めなりにて何ども市内学の校
もなく悪感に存じます何れよく拝
もて面白く話しおなします市記念
市院を　敬具

四月三十年　六月三十日　印　かしこ

石井鶴三様

上伊那郡教育會

仮番号［書10―243］

拝啓

御書面拝読致しました益々
御清勝にいらせら何(ママ)よりの
御悦びに存じます予て
御願ひの御揮毫御
恵与に預り有りがたく
御礼申し上げます気
高き風格自ら観る者
をして襟を正してしかも
言ふ可からざる親みを覚えさせます
皆々打集りて先生に
御目にかゝりたる感ありと
尽きぬ思に耽けりました
長く身の宝と致し
申すべく感謝致し
ます当地此頃滅切り
寒さ加はり四方の山々紅葉し
秋も盛りであります遠く
して先生の御来遊を得
ざるを憾みます御多忙の
御身且つは日にまし寒
さも加はります折柄切に
御大切に遊ばさるゝ様祈ります
取り敢へず御礼迄　敬具

昭和三年十月二十三日

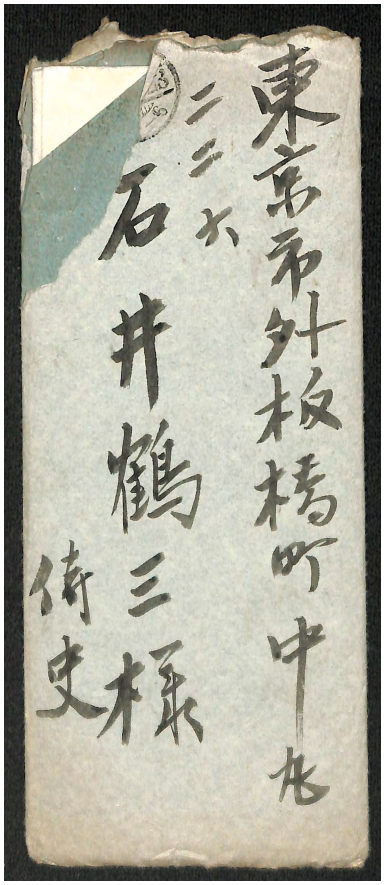
原才三郎

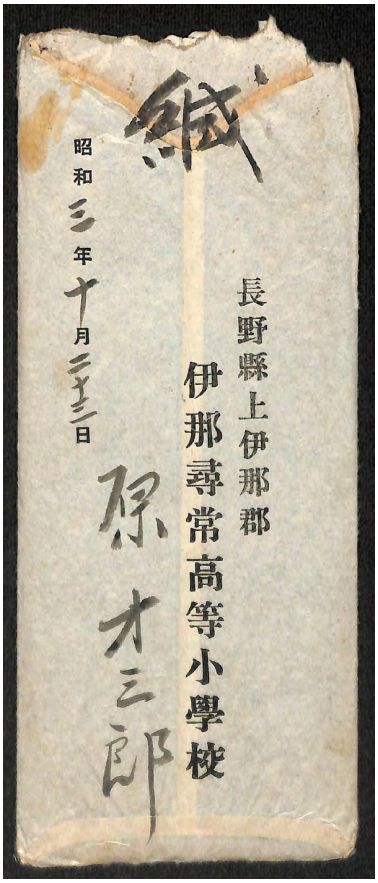
巻紙

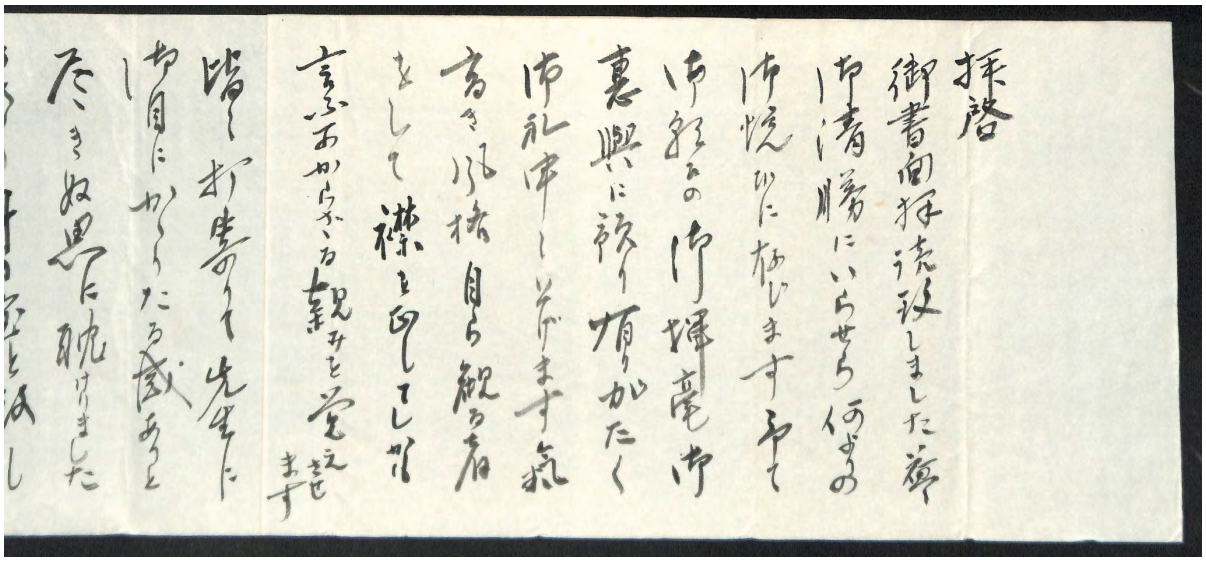
石井鶴三先生

貴下

［受信者］東京市外板橋町中丸／二二六／石井鶴三様
［発信者］長野県上伊那郡／伊那尋常高等小学校／原才三郎
［日付け］昭和三年十月二十三日
［消印］／3／―6


東京市外板橋町中丸
二二六
石井鶴三様
侍史


紙
昭和三年十月二十二日
長野縣上伊那郡
伊那尋常高等小學校
原才三郎


拝啓
御書面拝読致しました節
市清勝にいらせられの
市悦びに堪ません市て
市郷土の市埴毫市
恵興に欣び頂かたく
市祝申し上ます氣
高き眼力自ら敬る者
として襟を正しました
言ふあからさまの親みを覚えます
時に御書て先生に
市目にかゝたる感あと
尽きぬ思に耽りました

昨日は遠方より
御見舞かたじけなく感入
たてまつり候
長く身の安を祝し
申すべく感謝
ます　当地先日来切
寒さ加はり四方の草木
秋も暮れかゝります遠く
して先生の御来庭を待
さらを慎みます御多忙の
御身思ひはまし寒
さ加はります折柄切に
御大切遊ばされ給ひ
度へず御祈願
明治三年十月二十三日　尔才之助

石井鶴之先生

仮番号［馬場26―76］

拝啓

御無沙汰許り致しまして申訳ありません益々
御健勝にわたらせられ大賀に存じます
此度は春陽会御出品の絵はがきに御通信
をいたゞき有りがたく存じます昨年の
御作相撲につゞきて一万米突競走に先
人未踏の道を拓かれます御苦心の程深き
感動を与へられます二つの絵はかきをなら
べてあかず見入って居ます本年も一寸
先頃上京いたしましたが短時間にきりつめた
用務で遂に眼のあたり拝見出来なか
つことを遺憾と存じ居ります伊那のもの
及上田のものも御陳列と承りては尚更に
侘びて居ます
上京の上御願いたすべきでありますが
本年も引きつゞき彫塑御指導御願申
度何卒御詳容の程祈り申します上
田の方も仝様な希望に燃えて居ると存
じます時期は前年の様に暑中に御願
致しますれば結構に存じますどうぞ御
差繰り下されまして御了承を御願ひ申します

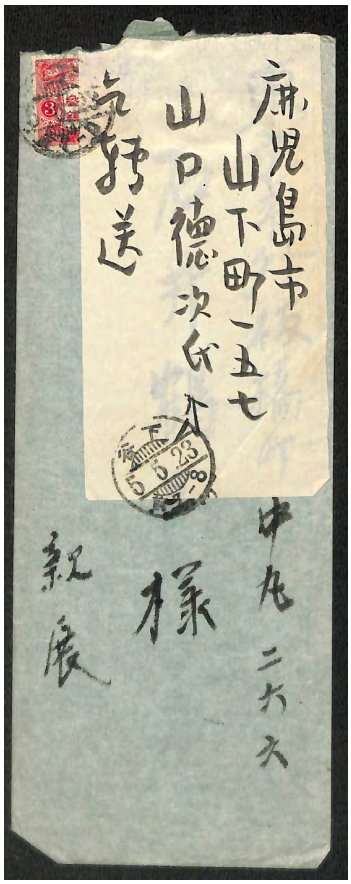
敬具

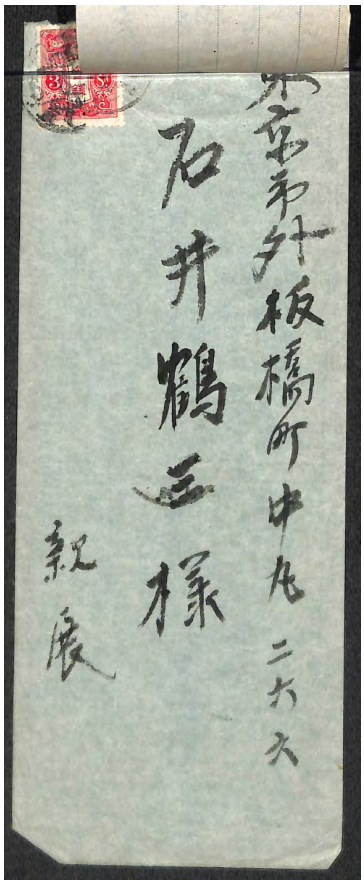
昭和五年五月二十一日　原才三郎

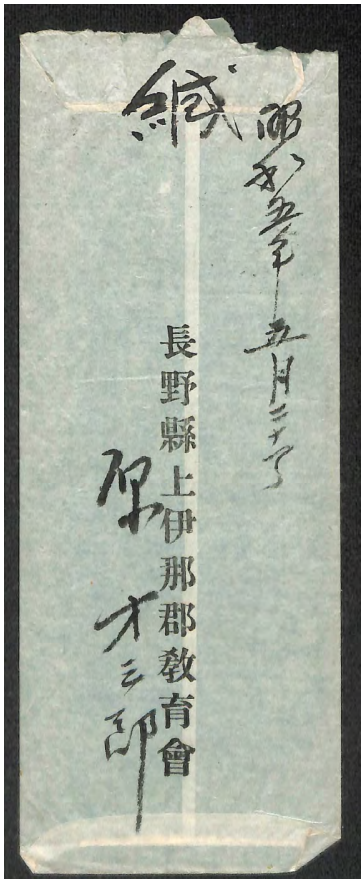
便箋

石井鶴三様

［受信者］東京市外板橋町中丸二六六／［転送］鹿児島市山下町一五七
山口徳次氏方／石井鶴三様
［発信者］長野県上伊那郡教育会／原才三郎
［日付け］昭和五年五月二十一日
［消印］





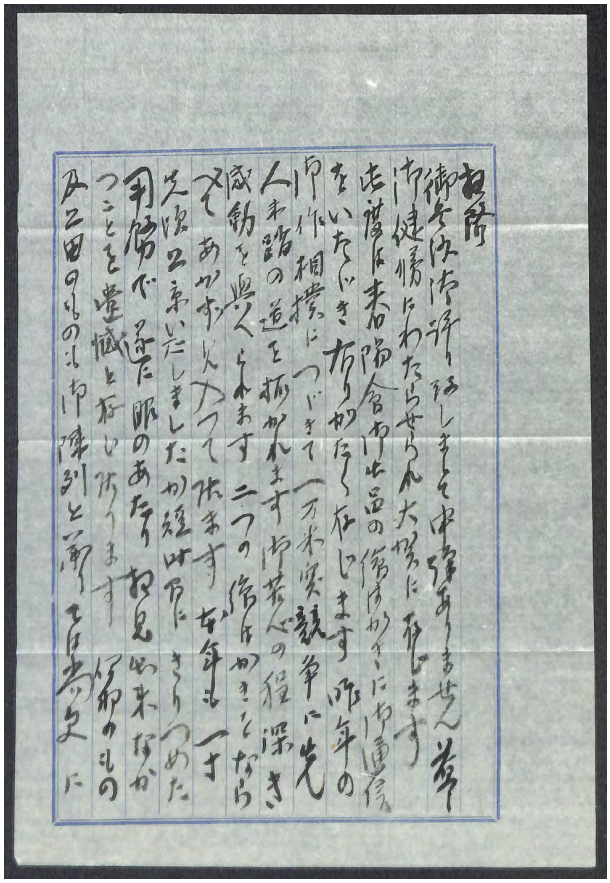


紙

昭和五年五月二十五日

長野縣上伊那郡教育會

保才三郎



拝啓

御令夫人御病死しまして中陣あります共

市健勝にわたらせられ大慶に存じます

先達て来信陶舎の出品の俳句かきに市連絡

をいたしきあり加なく存じます昨年の

市作相撲につづきて一万米突競争に先

人を踏の道を拓かれます市長の程深き

感動を與へられます二つの俳句かきとなら

て あかすに入つて居ます 去年は一寸

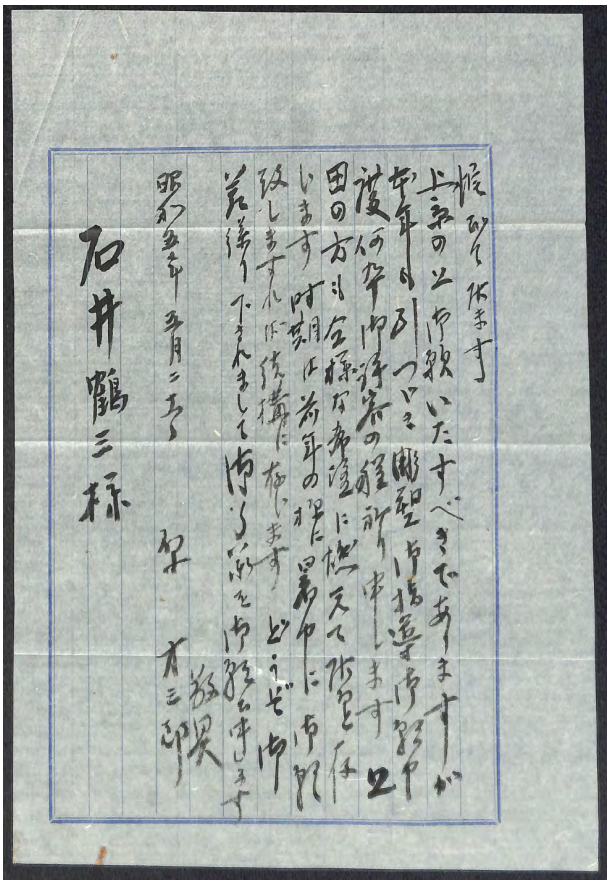
失礼に亦いたしましたが経過市にきりつめた

用務で選に眼のあたり拝見出来なか

つたことを遺憾と存じます

郵便のもの

及二回のものは市陳列と御一緒に



拝啓 仕ます

上京の上市教いたすべきであますが

去年の引つづき聊か市指導市野中

度の俳句市俳句の経験申します

田の方は全体なる事業に然て作品と存

します 昨日は前年の相撲 第市に市野

改しますれば後援に存じます どうぞ市野

義俳句 下さいまして市の俳句を市野に申します

昭和五年五月二十五日 保才三郎

石井鶴三様

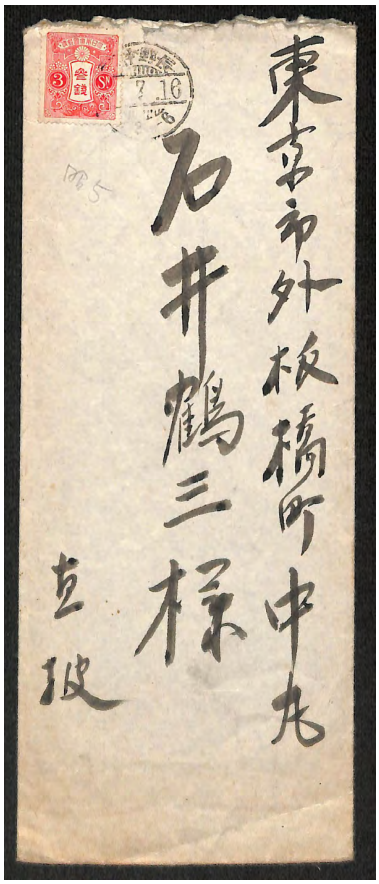
仮番号［書10―237］

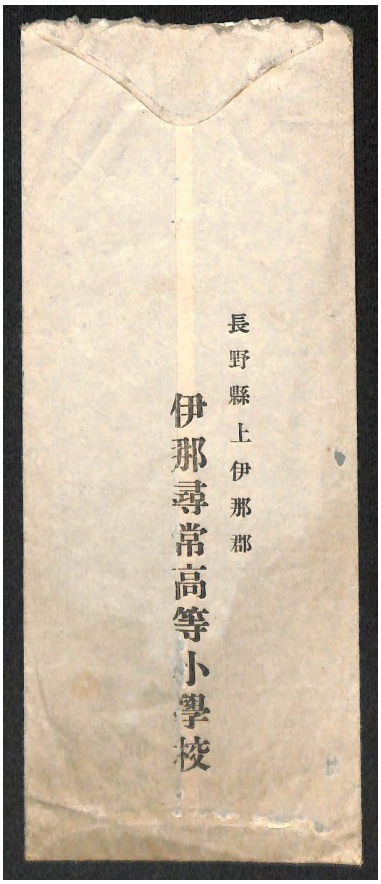
拝啓
梅雨明けより俄かの暑さにて信州も中々に
骨折れます東京の御暑さを想ひまして
只々御健勝を祈り奉ります
先般も一寸御願申上げおきましたが本
年も先生の御指導の下に彫塑講習
会を開きたいと存じます前年来の
会員の希望も之れあり連年の御苦
労を願ひました結果漸く進み来つた
人々の為めにも此願を叶へたいと存
じます御多忙の中を殊に暑い
折とて誠に恐れ多く存じますが
何卒御許容の程御願申し
ます期日は八月中二十日頃の間に御
選定くだされますれば之に過ぎたことは
ありません
出京の上御目にかゝり委細申上げ
御願致すべきでありますが失礼の儀
御容し被下度祈り参ります（カ）　敬具
昭和五年七月十六日
原才三郎

石井鶴三先生
御机下

便箋

［受信者］東京市外板橋町中丸／石井鶴三様
［発信者］長野県上伊那郡／伊那尋常高等小学校
［日付け］昭和五年七月十六日
［消印］長野伊□／□・7・16／□□―6





拝啓

極暑候にて何かの暑さにて信州は中々
皆様れます東京の暑さを想ひまして
只々御健勝を祈り奉ります
先般中一寸御伺ひ致しましたが本
年は先生の御出遊すのみに彫塑講習
会を開きたいと存じます前年来の
会員の希望にて有り遠年御考
慮を願ひました結果漸く運び来つた
人々の為めにも出来たいと存
じます御多忙の中を殊に暑い
折とて誠に恐縮に存じますが
何卒御許容の程御願申し

ます　即ち八月中旬御出京の間に御
選定下されます様に迄おたこそは
あります
出来の上御目に掛り委細申上げ
御願致すべきものありますが先ずは
御案内かたがた御礼申上ます　敬具
明治五年七月十六日　原太三郎

石井鴎三先生

仮番号［書10―242］

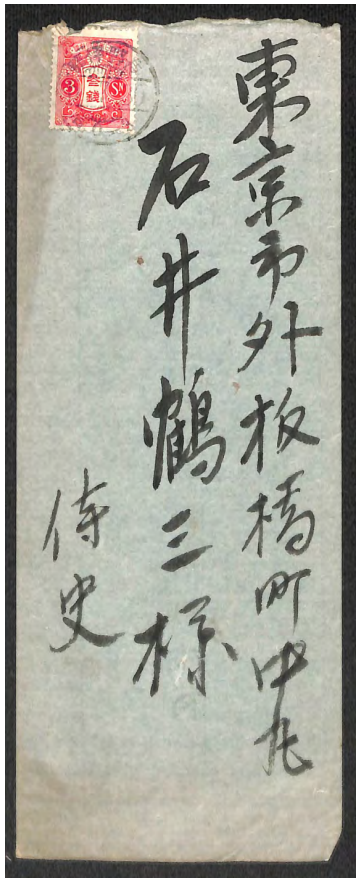
拝啓
御書面拝読致しました
当地講習会の儀御
承引に預り有りがた
く存じます早速其
準備に致します故
御了承被下度八月
十一日より十五日迄上
田の方より御廻り
被遊ます様御願
申します
天気都合もありますが
御都合御許しますれば
本年は西駒へ御
登山の予定にて御
出かけ成され度只今は
どうも山がよく晴れぬが
其頃には訖度（ママ）よくなる
ことゝ存じます御準備
とて格別の事は必要
之れなく只御日取りを
御予定なし下されなば
それにて十分と存じます
右御返事旁　敬具

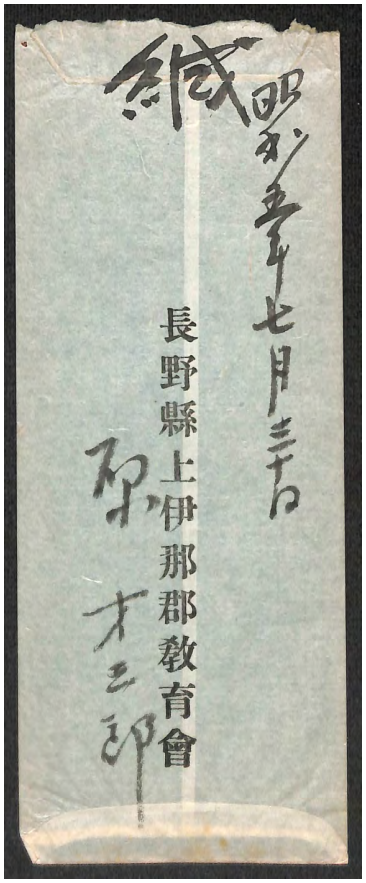
昭和三年七月三十日
原才三郎

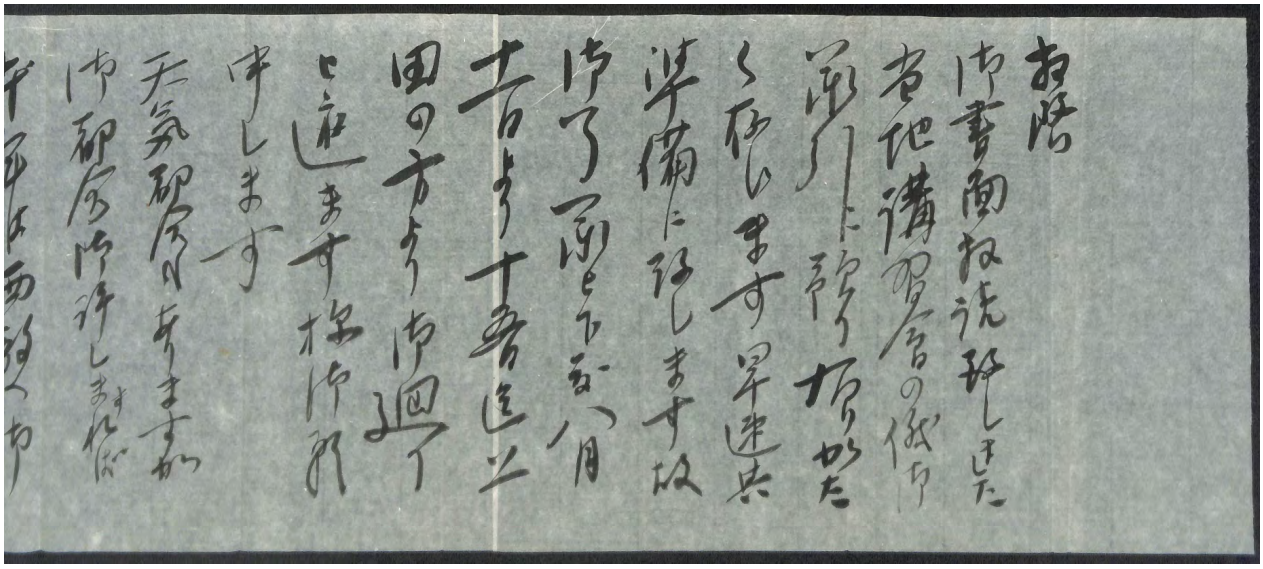
巻紙

石井鶴三様
玉案下

［受信者］東京市外板橋町中丸／石井鶴三様
［発信者］長野県上伊那郡教育会／原才三郎
［日付け］昭和五年七月三十日
［消印］長野伊那／5・7・30／后0―3


東京市外板橋町中丸
石井鶴三様
侍史


紙
昭和五年七月三日
長野縣上伊那郡教育會
原才三郎


お話
市書面拝読致しました
者他講習会の件
承知仕り早速
準備致します故
作了願ひます八月
十日より十五迄之
間の方より市迄
と迎ます板作所
申します
天気所がよまれば
市所作致します
中平西教市

中します
天気御序ありまして
市御序仕しまれば
中年は西弱く市
登山の方宜にて市
山がけ成さん方は
どうも山がよく晴れぬ
其頃は行方よくなり
と存じます市法御
とて格別の事は無
之なく只市日取り
市方宜なれば下されなば
当本にて十金相違
なく市色さて致
四月廿日三十日
石井鶴三郎

仮番号［書10―230］

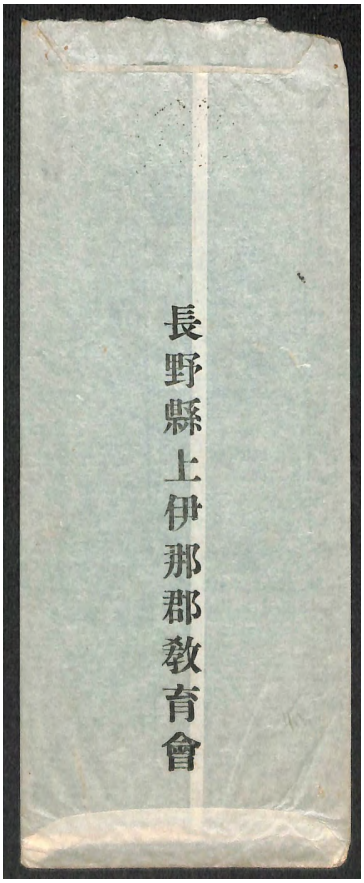
拝啓

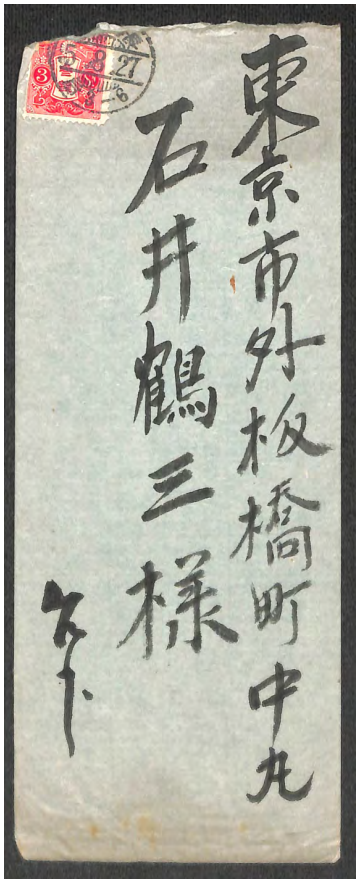
途中御無事御帰宅
を遊されたる趣拝承安堵
いたしました此度は暑気
最も強き折にも拘らず
御懇篤なる御指導を忝うし
有りがたく感謝いたします
特に報酬等につき御高志
拝承仕り何とも辞に尽せぬ
御志感佩の外ありませぬ
講習員に対しては深い御
教訓を賜はり会員の心肝に
銘する処と存じます当地
会員の熱誠の不足する点
につきては向後各自相戒め
発憤激励の道を講ずる
ことに努め度存じます何卒
将来相変らず御指導の程
御願ひ申します随分御
多忙の御事に存します時
候尚残暑酷烈を極めます
切に御健勝の程祈り参ります
駒ヶ嶽にて御写生の十字
花種物は仝調査委員の
云ふ所によれば大抵「ハクセンナヅナ」
なるべしとの事であります御
はがきに御記し被下ましたものは
「ツリガネニンジン」であります
御礼迄　　敬具
昭和五年八月二十七日
原才三郎

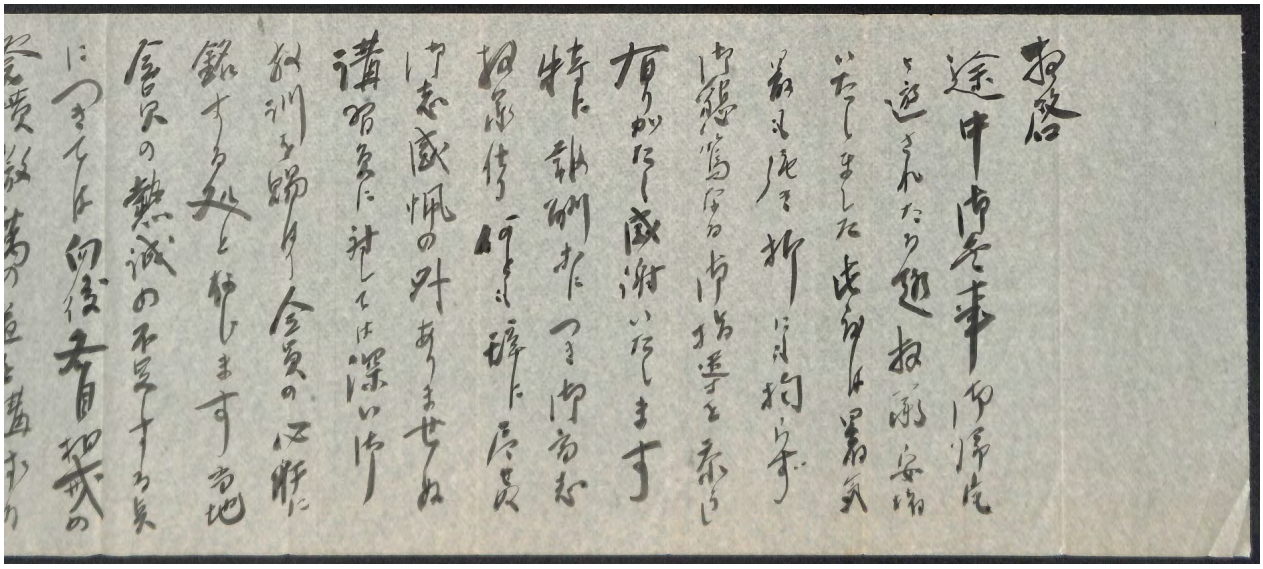
石井鶴三先生
坐右

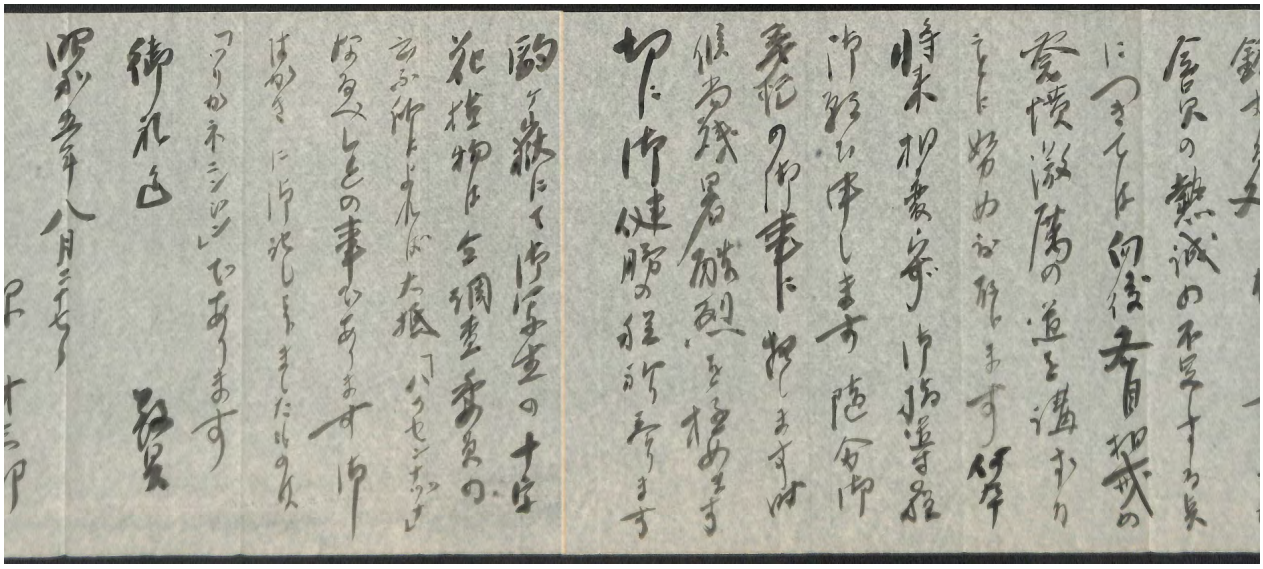
巻紙

［受信者］東京市外板橋町中丸／石井鶴三様
［発信者］長野県上伊那郡教育会
［日付け］昭和五年八月二十七日
［消印］長／5・8・27／后3―6


長野縣上伊那郡教育會


東京市外板橋町中丸
石井鶴三様
玄下





貴家の熱誠の不尽すべき点
につきては何後有賀氏の
愛憐激厲の道を講ずる
ことに努めおるべきます 何卒
時未相変家 御指導を願
御願い申します 陸軍御
発起の御事 御ますは
候為幾番御配慮を煩
切に御健勝の祈念致します

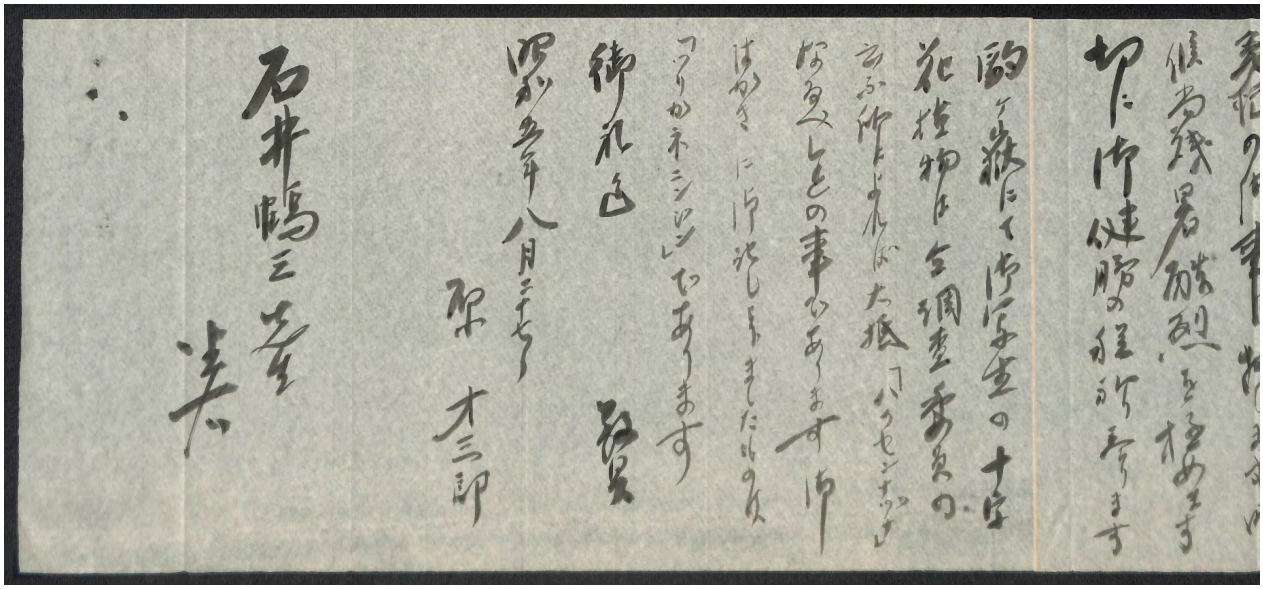
敬白 賀

追而 御家堂の十字
花柱物は全調査委員の
云ふ所よれば大抵「ハウセンカワ」
なる人との事であります 御
はがきに御記しましたるの
つりかネンジンであります

御礼迄 賀

四月廿年八月二十七

原 十三郎



発起の御事 御ますは
候為幾番御配慮を煩
切に御健勝の祈念致します

追而 御家堂の十字
花柱物は全調査委員の
云ふ所よれば大抵「ハウセンカワ」
なる人との事であります 御
はがきに御記しましたるの
つりかネンジンであります

御礼迄 賀

四月廿年八月二十七

原 才三郎

石井鶴三 様

清 様

仮番号［書10―241］

拝啓

御蔭様に開館記念展覧会も相当の
観覧者あり好成績を収めました之れも一に
先生方の御援助を得ました賜と感謝いたし
ます銅像除幕式が石屋の都合で延びて二十六
日になりました余り長くなりますので恐れ入り
ますが当日来会者の為めに絵画の方だけ
展覧のことに致したいと存じ其れ迄御
拝借御許し下さる様御願申します
次に甚だ卒爾なる儀に存じますが先生
より御拝借のあの画を若も御譲り願
へませうか御伺ひして見て呉れと申す人
がありまして、それは御願出来るとしても全部でなければならぬか
あの中一部分でも良いか御礼は何程差上
ぐればよいか御きゝして欲しいと申され
ます御差支なくば御内意御
洩らし下され度御願ひ申します
延期御依頼に併せ右御伺ひ迄

敬具

昭和六年十二月二十二日

原才三郎

石井鶴三先生

坐右

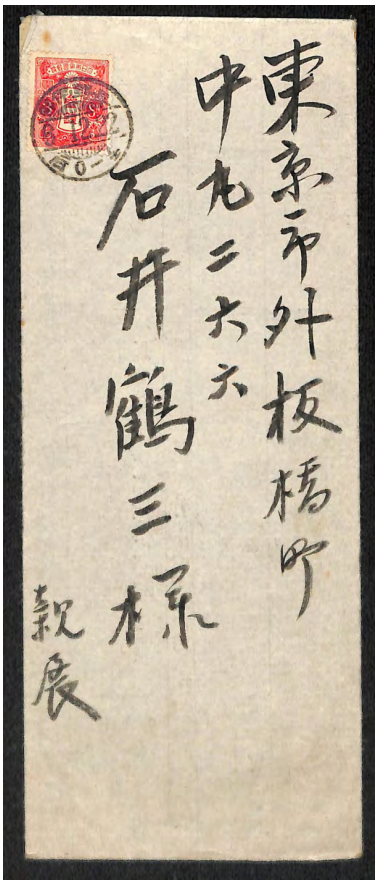
巻紙

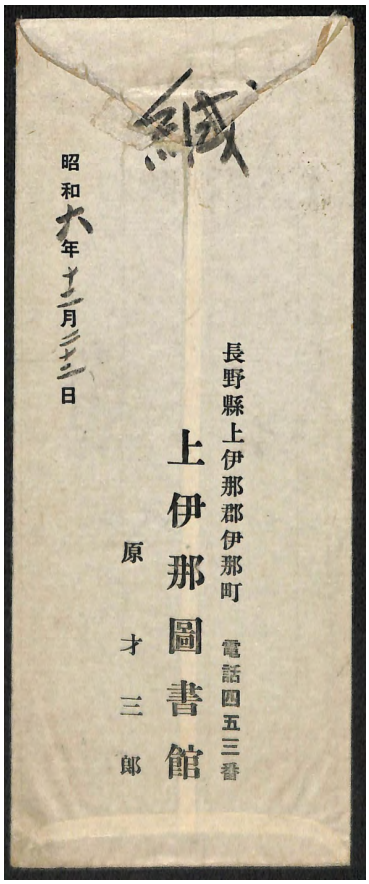
［受信者］東京市外板橋／中丸二六六／石井鶴三様

［発信者］長野県上伊那郡伊那町　電話四五三番／上伊那図書館／原才三郎

［日付け］昭和六年十二月二十二日

［消印］長野伊那／6・12・22／后0―4





拝啓

市陽様に関係沈念展覧会も相当の
観覧者を得て好成績を収めました事
先生方の御援助を得ました賜と感謝いたし
ます 銅像除幕式が本日の都合で延期となり
日になりました 余り長く掛ますので忘れて
ますが当日来会者の為めに絵葉書のみだけ
展覧することに致したいと存じ其れ迄市
松伯市様にもよろしく御伝へ願ます
次に甚だ卒然ながら係に成ますが先生
より御伯のあの画を貰ひ市導く教
へませうか市伺ひして見て呉れと申す人
が有ましてそれは金都でなければならぬが
あの中一部分でもよいか市那は何程差上
くれればよいか市きくして欲しいと申され
ます 市は差上げなくては市由京市
聞らしてきれば市彩色申します
此郷市伯様に保せ水市伺ひ迄

敬具

昭和六年三月廿三日

原 才三郎

石井鶴三先生

上伊那図書館